

天使すぎるアイドルは何が過剰なのか

—Nすぎる構文の意味—

佐藤らな

ranasato877@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

キーワード：日本語 認知意味論 名詞 述語名詞 過剰表現 -すぎる

要旨

「-すぎる」は、形態論的に非常に生産性が高く、動詞、形容詞、形容動詞に後接することが知られている。さらに、近年では「天使すぎる」ように、「-すぎる」が名詞に後接する例も主に口語的な表現においてしばしば現れるようになってきている。本稿は、「-すぎる」が名詞に後接するものを「Nすぎる構文」と呼び、その意味を分析する。Nすぎる構文は名詞に結び付いた典型的な物語を背景に、そこに含まれる性質の過剰を表すことを主張する。

1. はじめに

「-すぎる」は形態的に生産性が高く、動詞、形容詞、形容動詞に後接し、ある種の「過剰」を表す。

- (1) a. 昨日は飲みすぎた
- b. デリーのカレーはおいしすぎる
- c. この部屋は静かすぎる

名詞に「-すぎる」がつく例も口語表現、主にTwitterなどのSNS上において度々観察される。本稿では、名詞に「-すぎる」がついたものを「Nすぎる構文」と呼ぶ。「Nすぎる構文」については、中村（2005）、劉（2006）、小俣（2008）でその例が提示されているが、小俣（2008: 10）が「すぎるは名詞にも付くことは前記したが、このところについての説明は進んでいない」と述べていることからわかるように、詳細な分析は未だ提示されていない。

- (2) a. 君は合理主義者すぎるんだよ (中村 2005: 164)
 - b. ゲームセンターCXが神すぎるんだけど (小俣 2008: 10)
 - c. シナリオすぎる (劉 2006: 167)
-
- (3) a. 天使すぎるアイドル
 - b. ケチャップがトマトすぎる¹

¹生活クラブ http://seikatsuclub.coop/item/2015workshop_1.html 2016/08/03 参照。

c. アベすぎる!²

(3a) はあまりにもかわいらしいアイドルを表し、(3b) は、トマト風味の強いケチャップであることを表している。(3c) の「アベ」は第98代内閣総理大臣安倍晋三氏のことであり、彼のスピーチがいかにも彼らしい話ぶり³であることに對して用いられたものである。このようにNすぎる構文は、名詞が表す対象の「性質」が過剰であることを表す。例えば「トマトすぎる」では、トマトの数量の過剰ではなく、ケチャップの味におけるトマト性の過剰を表す解釈が好まれるのである。

本稿の構成は次の通りである。第2節では「-すぎる」に関する先行研究として由本(1997, 2005)を紹介し、由本の枠組みではNすぎる構文を扱えないことを示す。第3節では、Nすぎる構文の解釈過程を「述語名詞との類似性」に注目しつつ、「構文の強制」という観点から検討する。第4節では名詞が指す対象に関する百科事典的知識がNすぎる構文の意味において重要であることを明らかにする。第5節では固有名を用いた事例を紹介し、第6節では比喩的な意味が定着している例をみる。第7節はまとめである。

2. 「-すぎる」の先行研究における名詞の扱い

Nすぎる構文の事例を扱った先行研究は存在するものの、詳細な分析は行われていない。動詞に「-すぎる」が後接した例(e.g. 飲みすぎる)については由本の一連の研究(由本 1997, 2005)に詳しく、形容詞に後接するものも含めて、「-すぎる」に関する先行研究のほとんど⁴がその枠組みを採用している。しかし、Nすぎる構文は由本の枠組みで適切に分析することができず、「例外」とみなすほかない。

由本(1997, 2005)は「-すぎる」の意味解釈は、「-すぎる」が後接している動詞(e.g. 「飲みすぎる」であれば「飲む」)だけでなく、その動詞の作る句または補文まで考慮に入れなければならないことを示した。例えば、「遅くまで飲みすぎた」には「飲み終わった時間が遅すぎた」という解釈が許されるという(由本 2005: 221)。この解釈は、前項の動詞を考慮するだけでは導くことができない。このことから由本は「-すぎる」は前項の動詞の作る句や補文の

² Twitter @honda_hiroshi 2016/02/06 参照。

³ 例えば、漢字を読み間違える、うそをつく、独特の話し方のリズムなどの特徴を示している。

⁴ 第1節で挙げた先行研究を含む。形容詞と「-すぎる」の分析は山川(2000)などがある。

中から段階性のある要素を選択し、そこに過剰の意味を付加すると考える⁵。「太郎が遅くまで飲みすぎた」であれば、「飲み」が作る「太郎が遅くまで飲み(む)」という補文の中から、由本の言う段階性のある要素の中で優先度の高い「遅く」が選ばれ、それに過剰の意味が付加される。

由本(2005: 248)は名詞に関して「その概念範疇が「モノ」(Thing)であれば、それは量化できるものであるから、段階性を有す概念だと考えられる。」と説明している。例えば、「花に虫が付きすぎる」のような例では、虫の数量に過剰の意味が付加され、「虫の数量が多すぎる」と解釈されるのだという。また、「大きいケーキを焼きすぎた」の場合、過剰の意味が付加される要素として、名詞の数量ではなく、段階性のある要素である「大きい」が優先されるという。由本(2005: 46f)は、「-すぎる」の持つ「意味」が原則として属性に付与されるものであるとし、副詞や形容詞の優先性を主張している。由本に従うと、名詞には数量以外の段階性は存在しないことになる。そのため、(2)や(3)の例はいずれも、名詞の指示対象の数量の過剰を表していないため、例外あるいは、不適格とみなさざるをえない。

上記の不適格性に関して、Nすぎる構文のNは名詞ではなく形容動詞であると見なすことで、問題を回避できると思われるかもしれない。例えば、城田(1998: 283)は、「-すぎる」は名詞からは形成されないと述べ、「子供すぎる」の「子供」は形容動詞⁶と判断すべきであると主張する。しかし名詞ではなく「形容動詞語幹-すぎる」と述べるだけでは説明にはならないと思われる⁷。確かに、Uehara(1998)が主張するように形容動詞と名詞は連続的であり、どちらに属するか判断するのが困難な語彙項目は多い。しかし、両極に位置するもの、例えば、形容動詞「静か(な)」と「トマト」・「キムタク」を同一視して良いとは思われない⁸。

⁵ 由本は主に影山(1996)に従い、語彙概念構造(LCS)を用いて複合動詞の分析を試みている。LCSは動詞の意味のうちアスペクトや主題関係といった中核的意味だけを抽出し、述語関数を用いて構造的に表記したものである。由本(2005)は「-すぎる」の前項動詞が持つ統語構造及び動詞のLCS内の「段階性のある要素」に過剰の意味が付加されるという。「段階性のある要素」のうち、統語構造上(おそらく表面上)表れる副詞要素などが優先される。もし表面上「段階性のある要素」が見つからなかった場合はLCSの構成要素の中(頻度や時間の長さ、目的語の数量など)から選択されるという。陳・松本(2018: 25)が指摘するように、LCSの意味構造は簡略的であり、複合動詞はそのような意味構造では説明できない事項が数多く存在する。本稿の主題は動詞-動詞型の複合動詞としての「-すぎる」ではないため、LCSを用いた由本らの分析の問題点については別稿に譲る。

⁶ 城田(1998)の用語では状詞。

⁷ 環境によって形容動詞のように振る舞うとみなすこと自体には問題はない。類似する問題は「固有名-な」の分析などにも見られる(cf. Uehara 1998)。一方で「形容動詞」という品詞を認めるべきかどうかについては未だ明確な決着はついていない。詳細は松本(2017)を参照。

⁸ ラベルを張り替えるだけでなく、そのほかの環境で明らかに名詞として振る舞うような語と典型的に形容動詞とみなされているものとの差、また、形容動詞的に解釈されるというのはどういうことであるかを明確にする必要があるだろう。

3. 構文の強制と述語名詞

本節では、Nすぎる構文が名詞の性質の過剰を意味するプロセスについて、「構文の強制」および「述語名詞との類似性」という観点から検討する。

(1) の例に比べてNすぎる構文がより派生的であることは、その容認度の低さや主に口語的な用法が主であることから明らかである。本稿では、Nすぎる構文は「構文の強制」によって派生したと考える。「強制」とは、構文の意味がその構成素の意味価を構文全体の意味に適合させる現象を指す。例えば、前置詞句はプロトタイプとしては空間的な関係を表すが、(4) のように主語として用いることで、主語名詞句としての読みが強制される (Taylor 1998: 194)。これは構文の強制の働きによるものである。

(4) [Under the bed] seems to be a good place to hide it. (Taylor 1998: 193)

「-すぎる」は「値段が高すぎる」のように「(値段の) 高さ」などの性質スケールにおけるなんらかの基準点からの超過、すなわち「過剰」を意味する⁹。Nすぎる構文は、構文が持つ意味によって、なんらかのスケールを持つ解釈が強制されることとなる。

由本が想定しているように名詞の指示対象の数量がスケールとして読み込まれることもあるが、筆者が観察した限りでは「性質のスケール」として解釈される例が圧倒的に多い。Nすぎる構文は、「-すぎる」がつくことによって、名詞が指し示す対象ではなく、「対象がもつ性質」に焦点が当てられる。そこでの「対象がもつ性質」とは、対象に関する百科事典的知識であると考えている。これは対象を指示する際に用いられる知識でもある。モノを指示する際、我々はそのモノの属するカテゴリーに関する百科事典的知識を参照している。それがどのようなものであるのかを知らない限り、我々はモノを指示することができないはずである。イヌがどのようなものであるのか知らずに「イヌが走っている」と適切に発話することは不可能である。この「イヌがどのようなものであるのか」という知識、つまり百科事典的な知識がNすぎる構文の意味に決定的に寄与している (詳しくは次節で述べる)。

さらに、Nすぎる構文の意味機能は述語名詞と並行的に捉えられる。Langacker (1991: 2.2.4) は名詞が述語名詞として機能する場合には、モノをプロファイルする「名詞」から関係を表す「述語名詞への派生」が起こっていると述べる。

⁹ 「-すぎる」を用いた表現の典型として何を想定すべきなのかははっきりしない。中村 (2005: 166f) は文学作品中の「-すぎる」の用例数を調査し、形容詞と形容動詞を合わせたものの割合が大きいことや、動詞に「-すぎる」が後接する例でもその結果的に修飾語と結びついている例が多いことから、「A (形容詞+形容動詞) -すぎる」が典型であるとする。しかしながら井本 (2008: 327) は、「A-すぎる」が中核的な事例であることは「なぜ「-すぎる」が段階性を志向するのか」ということが明らかにならないかぎり確信的な主張にはならないと述べている。本稿では、この問題には深入りせず、Nすぎる構文に用いられた際の名詞の性質に焦点を当てる。

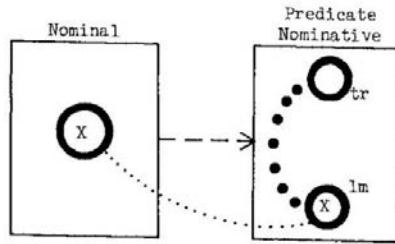


図1 Langacker (1991: 66)

図1は名詞から述語名詞への派生を図示したものである。図1で、Xは名詞が示す意味内容である。述語名詞に派生する場合には、関係に焦点を当てる（プロファイルする）ことになるのだが、名詞が元々持っている意味内容Xは引き継がれ背景（ランドマーク）として喚起される。つまり、モノを指示する名詞から述語としての機能を果たす名詞に派生したとしても、元々の意味内容は背景として機能し続ける。Nすぎる構文についても同様のことが言える。つまり、「-すぎる」が付くことで述語の一部にはなるが、名詞が本来持っている性質は受け継がれ、全体の意味に寄与している。

これは、「名詞が形容動詞になる」ということとは異なる。Langacker (1991: 67) は、述語名詞はカテゴリーを指示し、主語をカテゴリーの一員として位置付けるという機能を持つと述べる。類似する主張は、Wierzbicka (1988: 469)にもみられる。名詞が述語的に働くということは、その名詞が示すカテゴリーに対象を位置づけることであり、そのため形容詞よりも多くの性質を主語の対象に帰すことになることになるとされている。

- (5) a. Max is fat. (Wierzbicka 1988: 469)
 b. Suzie is a fattie. (Wierzbicka 1988: 470)

- (6) a. あいつは貧乏だ
 b. あいつは貧乏人だ
 c. あいつは貧乏すぎる
 d. あいつは貧乏人すぎる

(5a)はMaxの現在の体型を描写したに過ぎないのに対して、(5b)ではSuzieを名詞fattieが表すカテゴリーに位置付けることによって、体型だけでなく、太った人に対する、例えば脂っこいものをたくさん食べていそう・汗が臭そうなどの印象までも暗に示す。日本語でも、例えば(6)のabには差があると感じられるのではないだろうか。「-すぎる」を後接するとその差がより顕著に表れる。「貧乏人」という名詞を用いた場合には、ただ金銭的に貧しいだけでなく、貧しい人のステレオタイプ¹⁰に当てはまることを暗に示すことになるだろう。しかしながらも、(5b)の話者が最も伝達したい事柄がSuzieの体型である可能性までも否定しているわけではない。名詞を用いた述語表現の場合は、ある名詞の表すカテゴリーに関する百科事典的知識の中からその文脈に適した何らかの性質が取り出され、焦点が当てられる。しかし

¹⁰ 痩せている・汚らしい・アメニティを全部持って帰るなど。

その際にも、その名詞カテゴリーの知識内の情報が背景として“透けて”見え、同時に喚起されているのである。

このことはNすぎる構文の場合にも同様に当てはまる。例えば「トマトすぎる」がトマトの酸味に焦点を当てて、トマトの風味が過剰であることを表現しているとしても、「トマトすぎる」は「すっぱすぎる」と完全に等価にはならない。トマトについての百科事典的知識の中にある「すっぱさ」が取り出されるにしても、それはあくまで「トマトとしての酸っぱさ」であり、ニュートラルな「すっぱさ」には代えることができない。名詞「トマト」の表すカテゴリーに結びついた百科事典的知識を全体として喚起した上で、その中で特に際立っている性質の過剰として解釈されるのである。

- (7) a. ケチャップがトマトすぎる = (3b)
- b. 黒酢がすっぱすぎる
- c. ??黒酢がトマトすぎる (意図した読み:黒酢の酸味が過剰だ)

Nすぎる構文において過剰と結びつき、焦点が当てられるのは、対象の百科事典的知識を構成する性質全体ではなく、その一部ではあるが、これを百科事典的知識から切り離された孤立した性質だと考えてはならない。一部はあくまで全体との関係における一部である。すなわち、その解釈は百科事典的知識を織りなす意味のネットワーク全体を背景として行われるのである。

4. カテゴリーとトマトすぎる

前節で述べた「名詞が示すカテゴリー」とはどのようなものだろうか。以下より、認知文法におけるプロトタイプを中心としたカテゴリー観、および、野矢 (2011: 第23回) の提唱する「典型的な物語」を基に、Nすぎる構文でNから導かれる「性質」とはどういったものなのかを検討する。さらに、Nすぎる構文のNは名詞単体だけではなく、修飾も含めた名詞句全体をも含むことを示す。

西村 (1998: 115) によると、「人間にとって重要なカテゴリー（「XをYとして捉える」という場合のYに相当する分類項目）の多くは、プロトタイプと呼ばれる、我々の経験にとって他の成員よりも基本的と考えられる成員を中心にして、その周辺にプロトタイプからの（何らかの原理に基づく）拡張としての非中心的な成員を配するという形で構成されている」。このプロトタイプというのは現実世界に存在する指示物ではなく、概念的に構成された抽象的なものである (cf. 松本編 2003: 47, 野矢 2011: 403)。Nすぎる構文の意味に寄与する名詞の性質は、ほとんどこのプロトタイプと一致する。

野矢 (2011: 23) は、プロトタイプに関わる通念を「典型的な物語」と呼び、「ある概念を理解するとは、その概念のもとに開ける典型的な物語を理解することなのである」と述べている。例えば、「トマト」という概念を理解するための重要な要件として、理想的な、あるいは、プロトタイプとしての「トマト」を想起できるということがある。とはいえ、これは概念とし

での「トマト」であり、何軒八百屋を巡っても出会うことができない。それでも、目の前にあるトマトを「トマト」とみなす限りにおいて、トマトの典型的な物語をそこに読み込んでいるのである。「ケチャップがトマトすぎる」が開く「トマトの物語」には、ケチャップのプロトタイプも登場する。そしてまた、「ケチャップはトマトを材料としている」「味が強いトマトとはどのようなものか」といった周辺知識も喚起される。このような典型的な物語は芋づる式に、ほかの典型的な物語と網目状に絡み合い、典型的な世界全体を語りだすものとなる (cf. 野矢2011: 412)。つまり、「トマトすぎる」は、「すっぱすぎる」とは異なる物語を開く。(cf. (7))。

- (8) a. オタクっぽい女子って、『女の子すぎる趣味』じゃないから、
デートが楽しいんですね。¹¹
b. 女の子すぎる男の子でした!¹²

もちろん、物語を開くのはトマトだけではない。(8)の「女の子すぎる」からは、現実世界に存在する具体的な女の子ではなく典型的な女の子像が喚起される。指示しているのが実在の女の子ではなく、概念としての「女の子」であるからこそ、(8b)のように男性にも「女の子すぎる¹³」を用いることができる。

また、修飾部を伴った名詞句の場合も、あくまで名詞句全体によって開かれる物語を指しているのであって、修飾部と名詞とを単純に足し合わせるのではここで意図された解釈に至ることはできない。「町」と「賑やか」と「賑やかな町」はそれぞれ異なる物語を開く。

- (9) a. 賑やかな町すぎる
b. 町が賑やかすぎる
- (10) a. いいレストランすぎて、入れない
b. ?レストランがよすぎて、入れない
- (11) a. 最高の夜すぎる¹⁴
b. その夜が最高すぎる
- (12) a. お前が結婚するには若い子すぎる
b. お前が結婚するにはその子は若すぎる

¹¹ <https://googirl.jp/renai/190216koseitekiotakujoshi006/> 2019/4/20 参照。

¹² <https://ameblo.jp/futtonda-diary/entry-11270762890.html> 2019/04/20 参照。

¹³ 「-すぎる」に関する考察や、典型、ステレオタイプに近いものが喚起される表現の多くで、その評価的な意味が肯定的なものなのか否定的なものなのか問題となる (cf. 小俣 2008, 野呂 2016など)。「女の子すぎる」といった場合、多くの場合否定的評価を表す意味で用いられているようであるが、肯定的評価を表す例も多く (8b) は肯定的評価に傾いているように思われる。評価の意味については、どのような要素が関与するのかなど論じるべき点は多いが、本稿の射程を超えるものである。

¹⁴ Twitter @ami_sound 2019/4/17/ 参照。

(9) のaとbを比べると、微妙な差ではあるが、(9a)は町の恒常的な性質を示しており、「お年寄りが住めない」などの文と相性が良いと判断できる。(9b)では、お祭りやセールなどで一時的に町が賑やかである場合も違和感なく使えるが、同様の状況を表現する場合に(9a)を用いるのは不自然だろう。(10a)の「いいレストラン」は「いい」という修飾部まで含めた名詞句の概念が参照されており、「いいレストラン」の「物語」が開かれる。「いいレストラン」は高価で敷居が高いといった印象を含み、それゆえ「入れない」と共起できる。一方で「レストラン」が開く物語には、そのような印象は含まれず、良さが過剰であったとしても、そのことは「入れない」理由にはなりづらいだろう。(11)のaとbも同様に言い換えて同じ意味であるとは考え難い。(12b)は単に年齢の低さを問題にする解釈が優勢であると思われるが、(12a)には「若い子」が持つ「不安定」であるとか「生活能力がない」などといった意味合いも含まれるように感じられる。形容詞による修飾を持つNすぎるの構文について、中村(2005: 139)は「NPすぎる」という構造を認めてはいるものの、「いい人すぎる」のように名詞句内の形容詞を修飾することも可能である。「*人すぎる」は理解不能であるから、「すぎる」は「いい」を修飾していると考えるのが妥当であろう。」と述べている。しかし、ここまで見た例と同様に「人がいい」と「いい人」では意味が異なる。名詞句全体が物語を持っていると考え、と、「いい」だけを取り出すのは正確ではないだろう。

5. 固有名とキムタクすぎる

Nすぎるの構文には固有名も現れる。本節は固有名に「-すぎる」が後接する例を考察する。言語学・哲学の理論において、固有名の機能は指示することに留まり固有名は単なるラベルであり、それ自体には意味がないとも言われてきた(cf. 立川・山田 1990, 藤川 2014)。しかしながら、固有名の意味が指示に尽きるとすると、固有名の現れるNすぎるの構文の意味を適切に説明することが不可能になってしまう。以下の(13) - (15)のような例は観察され、また、Nすぎるの構文でなくとも、固有名が指示に尽きるのではないことを示唆する表現は多い。

- (13) a. アベすぎる！=(3c)
b. キムタクがキムタクすぎる
- (14) バーニャカウダで「二度づけアリ？」と聞く母...大阪すぎる¹⁵
- (15) [松田のことをよく知っている友人同士の会話で]
また忘れ物して怒られたの？松田すぎるわー
- (16) a. 第二のチョムスキー
b. 今日の髪型キムタクっぽいね

確かに、Langacker (1991: 59, 2008: 316-318, 2017: 313)も、固有名に関して重要なことは、ある社会集団の中でその固有名を用いて指示できる対象が一つしかないということであると主張して

¹⁵ Twitter @lunalucret16 2019/04/15 参照。

いる。このことの根拠として、固有名と他の名詞句では、指示対象の同定の仕方が異なっているという主張がなされる。しかし、これは、固有名にはタイプとしての知識が存在しないという主張ではない。Langackerは、固有名にも他の名詞と同じく、意味があることや固有名の指示対象にまつわる様々な知識が存在することを認めている。例えば、Sueという固有名は、それが指示する人物が、「女性である」とか日本人から見れば「外国人である」というようなことを示している。そして、Sueという人物と同じ社会集団・共同体に属している人物は、Sueに関する知識、具体的には、年はいくつで、どこの大学に通っていたのか等を持っており、Sueで一人の人物を指すことが可能である。

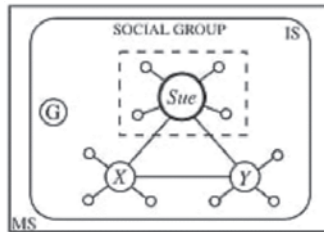


図2 Langacker (2017: 312)

一方で、同じ言語を話す社会集団に属しているだけでは、固有名で指示される人物を唯一の存在として同定できるとは限らない。音韻的な型からそれが名前であると判断できたとしても、誰か何かと結びつけられなければ固有名は有意味に機能しない。例えば(17)では「花子」が誰を指すのかを知らない我々は「花子」に関する知識を喚起できず、有意味に解釈することはできない。共同体の中で共有できる唯一の存在である「花子」として同定できてはじめて「花子すぎる」を用いることができる。

(17) [話し手・聞き手ともに花子が誰か知らない状況で] *花子すぎる

また、固有名で指示される対象をどのくらい知っているかも重要な要素となる。野矢(2011: 416)は「例えば、「N・Y」というのが人物名であるとする。ある程度その人のことを知るようになると、N・Yさんについての典型的な物語がそこに伴うようにもなってくる。」という。固有名によって全く知らない人物を指すことも可能であるかもしれない¹⁶が、Nすぎる構文で用いるためにはある程度、指示対象について知っていなければならない。(13)に挙げた例は、日本の文化圏にいれば、または日本の事情に詳しくれば、誰もが知っている名前であり、その誰もが、それらの固有名の指示対象についての様々な知識やイメージを持ち合わせている。これは、我々が「トマト」に関して持っている百科事典的な知識のあり方と類似している。しかし、異なるのは「トマト」は文脈がなければ世界で唯一のトマトを指し示せないの

¹⁶ 知らない名前を聞いたとしても、誰かしらの名前であることを理解してコミュニケーションを成立させることは可能である (cf. 野矢 2011:156-159 「小切手のなやりとり」)。

に対し、我々が所属する社会集団の上では、「キムタク」や「アベ」・「大阪」は唯一の指示対象を持つという点である¹⁷。

固有名のもつ中心的な機能が名指すことであっても、Nすぎる構文で用いられる際に焦点が当てられるのは固有名の指示対象ではなく、指示対象に関する百科事典的知識である。例えば、(14)の「大阪すぎる」は、日本の近畿地方（関西地方）の地名によって、その地域の持っている百科事典的知識の中から、「大阪では串カツが有名」「串カツではソースを二度付けすることは禁止されている¹⁸」などの情報を喚起し、さらにバーニャカウダ¹⁹の食べ方との類似性を見出すことで理解される。

また、重要なのは、「社会集団」は、文脈によって様々なサイズになりうるということである（Langacker 2008: 316）。(15)で松田という人物に関するこの発話が可能なのは、彼のパーソナリティを知る「親しい友人同士」という共同体の成員だけであり、共同体に所属していない人物には不可能なのである。

さらに、同じ社会集団の成員であってもその人物のどのような側面を問題にする、または知っているかどうかに応じて同一の固有名を用いた表現であっても、様々な解釈がありうる。

「キムタクすぎる」といった時のキムタクがアイドルとしてのキムタクなのか、俳優としてのキムタクなのか、それとも父親や友人としてのキムタクかで何が「キムタクすぎる」のかは異なってくる。Sakai (2018) や藤川 (2014: 130-135) で論じられている「アспект」がこれに対応すると思われる。(18)に登場する2つの固有名が指し示す人物が同一だと知っていたら個体ではなくアспектを指し、そうでなければ別の人物と考える (cf. Sakai 2018: 214)。これはスーパーマンとクラーク・ケントのような特殊なケースだけでなく、我々がキムタクの父親としての側面を知らない場合に、「芸能人キムタク」としてしか「キムタクすぎる」を用いることができないといったごくありふれたケースにも当てはまる。我々が参照する「キムタクすぎる」に関する百科事典的知識は、アспектによって制限されている。

(18) a. Superman leaps more tall buildings than Clark Kent.

b. Clark/Superman's Superman-aspect leaps more tall buildings than Clark/Superman's Clark-aspect.

(Sakai 2018: 214)

¹⁷ グラウンディング要素が最初から含まれていると言える (Langacker 2017: 312)。

¹⁸ 大阪の串カツ屋では、ソースをつける容器を周りのお客と共用するので、衛生上ソースは食べる前に1回だけというのが鉄則です。ちなみに、1回だけでソースが足りない場合は、添え物のキャベツでソースをすくって串カツにつければよいとのこと（串カツを食べるときに「やってはいけないマナー違反な行動」8選 <https://precious.jp/articles/-/9219> 2019/04/21 参照）。

¹⁹ テーブルの上に“フォイヨ”と呼ばれるテラコッタ製の鍋を置き、アンチョビ、火を通して柔らかくしたニンニク、オリーブ・オイルを混ぜ合わせたディップソースを温め、野菜を浸して食べるフォンデュに類似した料理である（フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』「バーニャカウダ」2019/04/21 参照）。

6. 飼いなされた比喻と天使すぎる

比喻表現には、比喻的な意味が慣習化しているものがある。例えば (19) での村上春樹は人物ではなく著作を指す。これはメトニミーの例としてよく挙げられる使われ方としての「村上春樹」(e.g. 村上春樹を読んだ) と考えることができる。その場合、村上春樹の書いた本の数量が過剰だと解釈されるのではなく「村上春樹が書いた本はこのようなものだ」という知識に焦点が当たり、その性質が過剰であると解釈される。村上春樹以外でも、ある程度有名な作家名であれば、同様の表現を用いることが可能である。作家の名前によって著作を表すというプロセスは慣習化されているとあって良い。このことの反映として、Nすぎる構文で著者名がNに用いられる際、著者自身ではなく、著作の特徴に焦点を当てて解釈される例が多い。

(19) 騎士団長殺し村上春樹すぎる²⁰

同様に (20a) の「天使すぎる」について考えてみると、「天使」という語も神話などに登場する天使を指示する用法よりも、「天使のようにかわいい」という言いの方がより定着していることからその意味が動機づけられていると考える方が自然である。直接指示対象を表す表現よりも、比喻的な言い方が定着しているのである。一方で (20b) の「穴」という名詞は「穴がある」という表現では実際に穴が空いている場合に用いられるのもごく自然であるが、比喻的に用いられることも多い。「天使」ほどではないが、「穴」はそれで「欠陥」という意味を表すことも慣習化しており、ほとんど義務的に比喻と解釈する事例と文字通りに示された対象を読み込む事例との中間に位置付けることができる。イディオムで用いられる語がNすぎる構文で用いられる際にも同様に、名詞の文字通りの意味ではなく、より比喻的な意味を表すことが観察できる。(20c) の「綱渡り」は実際に綱を渡ることではなく、「危険を冒すこと」という程度の意味を表している。これはドラマのキャストिंगが予想外で不安を感じるものであることへの言及である。(20d) は「涙腺」は単独で用いられることはほとんどない。「涙腺が緩む」「涙腺崩壊」などの表現からの類推のもとで初めて「感動する」のような意味に結びつくのである。

(20) a. 天使すぎるアイドル= (3a)

- b. 仮面浪人が自己採点できるのシステムの穴すぎる²¹
- c. 綱渡りすぎるキャストिंग²²
- d. 山口忠が涙腺すぎるので、みんな春高予選の青城戦を見てくれ²³

²⁰ Twitter @shironeko 2019/04/15 参照。

²¹ Twitter @Ldio03 2019/07/06 参照。

²² <https://mag.sendenkaiji.com/brain/201901/up-to-works/015057.php> 2019/04/22 参照。

²³ Twitter @nenenuku93 2019/02/12 参照。

慣習化によって、ある語がある特定の意味と強く結びつくという事象は、どのような名詞に関しても起こり得る。野矢（2011:417）は以下のように述べている。

「N・Y」という人名は「N・Yさんらしい」という言い方において、むしろ普通名詞として機能していると言えるだろう。（このような固有名詞の普通名詞化は、例えば「彼は現代のソクラテスだ」のような言い方にも見られるものである。この場合にも、「ソクラテス」はむしろ普通名詞として、ソクラテスに関わる典型的な物語をそこに開くものとなる。）

固有名であっても、普通名詞であってもそこに「らしさ」を見出し、典型的な物語を開くことができれば、Nすぎる構文で用いることができる。固有名であれば、固有名で示される対象の性質、つまり「らしさ」が慣習化していればしているほど、より普通名詞に近くなり用いやすくなる。（21）は「キムタク」の「らしさ」が慣習化しているからこそキムタク本人ではない人物にも使えるようになっている。

（21）キムタクの娘がキムタクすぎる²⁴

7. おわりに

最後に、ここまで見てきたNすぎる構文にあらわれるNは、形容動詞ではなく「名詞」として分析するべきだということを「名詞の性質」の観点からあらためて述べておきたい。尼ヶ崎（1990）は以下のように指摘している。

「あいつはドン・キホーテだ」と誰かが言う。この時私たちはドン・キホーテを分析してそれをA氏の性格と見なすのではなく、ドン・キホーテをそのままA氏のプロトタイプとみなすのである。A氏の「らしさ」を理想的に体現しているのがドン・キホーテであると告げられて、私たちはA氏がいかなる人物かを抽象的な属性の束によってではなく、具体的なドン・キホーテという人物によって理解するのである。〈A氏らしさ〉というのとはもともと一種の手触りのあるものを、「無謀」等々の概念に置き換えればその手触りは失われてしまう。けれども〈ドン・キホーテらしさ〉という別の手触りを持つものによって置き換えるなら、私たちは〈A氏らしさ〉を、いわばその生命を失うことなくつかむことができるように思える。（尼ヶ崎 1990: 62）

Nすぎる構文で表現される「名詞の性質」とはその名詞を通してしか感じられない我々の立体的な感覚を表現している。もちろん「あいつはドン・キホーテだ」のようなコピュラ文でもそれは感じ取ることができるのだが、Nすぎる構文という構文が、その感覚を喚起させ、溢れさせる機能を果たしている。

²⁴ <http://tsubuchan.blog.jp/archives/9545308.html> 2019/02/02 参照。

本稿では、これまで例外とみなされてきたNすぎる構文について分析した。Nすぎる構文は名詞に結び付いた典型的な物語を背景に、そこに含まれる性質の過剰を表す。Nすぎる構文の例から改めて「名詞の性質」を捉え直すことで、「名詞」のもつ様々な側面が映し出される。構文による強制や述語名詞の用法からその意味は動機づけられるとしたが、Nすぎる構文に限らず、「-すぎる」を用いた表現を貫く「過剰」という意味特性、さらにその生産性の高さの正体については今後の課題としたい。

参考文献

- 尼ヶ崎彬 (1990) 『ことばと身体』東京: 勁草書房.
- 井本亮 (2008) 「限界点を越える —「Vすぎる」の意味計算と解釈コスト—」岩本遠億 (編) 『事象アспект論』東京: 開拓社. : 323-368.
- 小俣佳啓 (2008) 「日本語の複合動詞「～すぎる」について—新聞, www用例から見るマイナスイ性, プラス性—」『指向 日本語文化学・応用日本語学論究05』(大東文化大学大学院外国語学研究科日本語文化学専攻) : 7-20.
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論—言語と認知の接点—』東京: くろしお出版.
- 城田俊 (1998) 『日本語形態論』東京: ひつじ書房.
- 立川健二・山田宏昭 (1990) 『ワードマップ 現代言語論 ソシユール フロイト ウィトゲンシュタイン』東京: 新曜社.
- 陳奕廷・松本曜 (2018) 『日本語語彙の複合動詞の意味と体系—コンストラクション形態論とフレーム意味論』東京: ひつじ書房.
- 中村嗣郎 (2005) 「すぎる構文: 書き言葉における実例の分析」『コミュニケーション科学』(東京経済大学) 22: 139-177.
- 西村義樹 (1998) 「行為者と使役構文」中右実・西村義樹『日英語比較選書 5 構文と事象構造』東京: 研究社. 107-203.
- 野呂健一 (2016) 『現代日本語の反復構文 構文文法と類像性の観点から』東京: くろしお出版.
- 野矢茂樹 (2011) 『語りえぬものを語る』東京: 講談社.
- 藤川直也 (2014) 『名前に何の意味があるのか: 固有名の哲学』東京: 勁草書房.
- 松本悠哉 (2017) 「語幹に格助詞を伴う形容動詞の用法について」『東京大学言語学論集』38: 123-144.
- 松本曜 (編) (2003) 『認知意味論』東京: 大修館書店.
- 山川太 (2000) 「複合動詞「～すぎる」について」『日本語・日本文化』(大阪外国語大学留学生日本語教育センター) 26: 29-47.
- 由本陽子 (1997) 「動詞から動詞を作る」影山太郎・由本陽子『語形成と概念構造』東京: 研究社.
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』東京: ひつじ書房.

- 劉健 (2006) 「「～すぎる」から見られる名詞と形容動詞の性質上の関連」『日本語文化研究』 6: 156-175.
- Langacker, R. W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar, vol. II, Descriptive Application*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R.W. (2008) *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. New York: Oxford University Press.
- Langacker, R. W. (2017) *Ten Lectures on the Elaboration of Cognitive Grammar*. Leiden/Boston: Brill.
- Sakai, T. (2018) Singular Thought in Non-Singular Propositions: A Cognitive Linguistic Perspective. 『東京大学言語学論集』 40: 221-227.
- Taylor, J. R. (1998) Syntactic Constructions as Prototype Categories. In Michael Tomasello (ed.) . *The New Psychology of Language: Cognitive and Functional Approaches to Language Structure*. 177-202 Mahwah, NJ: Laurence Erlbaum Associates. (秋田喜美 訳 (2011) 「プロトタイプ・カテゴリーとしての統語構文」マイケル・トマセロ (編) 『認知・機能言語学 : 言語構造への10のアプローチ』東京: 研究社.)
- Uehara, S. (1998) *Syntactic Categories in Japanese: A Cognitive and Typological Introduction*. Tokyo: Kuroshio Publishers.
- Wierzbicka, A. (1988) *The Semantics of Grammar*. Amsterdam: John Benjamins.

What Does a “Tenshi-sugiru Aidoru” Have Too Much of? : The Semantics of the N-*sugiru* Construction in Japanese

Rana SATO

ranasato877@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

Keywords: Japanese, predicate nominative, cognitive semantics, “-*sugiru*” construction

Abstract

The Japanese verb *sugiru* is frequently appended to verbs and adjectives, traditionally considered to add the meaning ‘too much’. In recent years, a growing number of examples in which *sugiru* is appended to noun phrases have also been found in small talk and on SNS (e.g. *tenshi-sugiru* lit. angel-excess). This paper provides a detailed analysis of this novel construction, arguing that it expresses an excess of the quality included in the “prototypical story” (Noya 2011) associated with the noun phrase.

(さとう・らな 東京大学大学院)